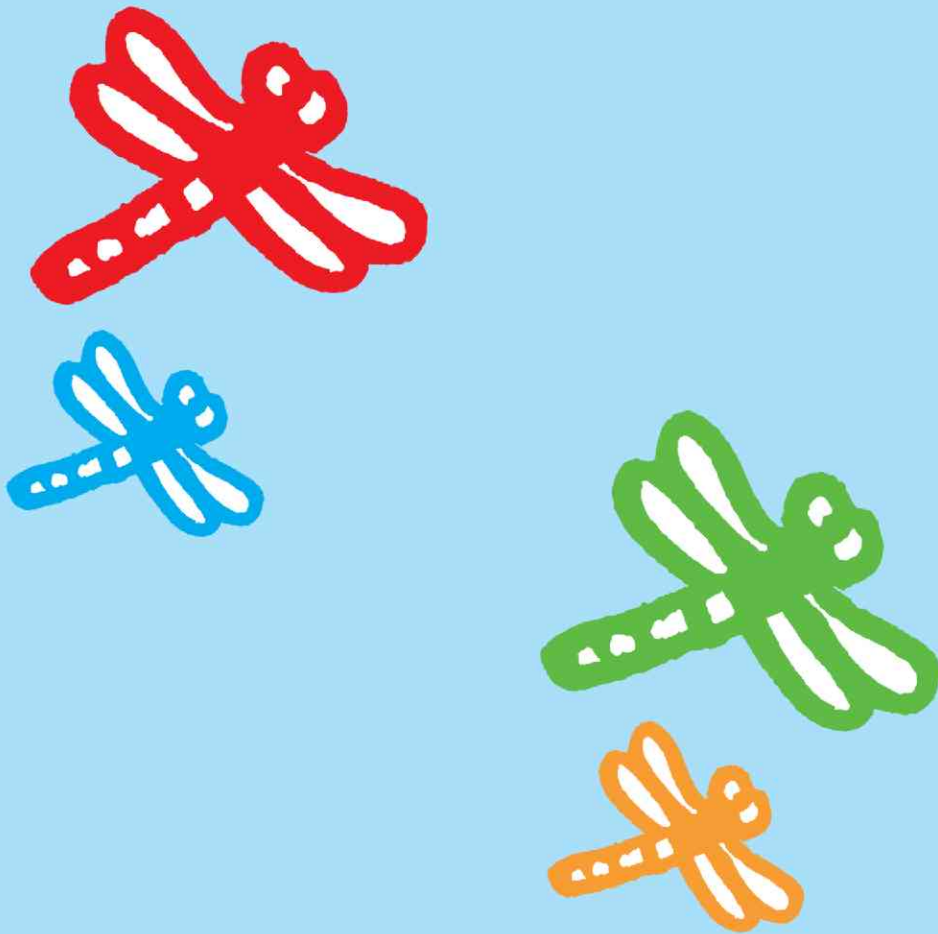




トンボ

CSRレポート2010

2009.7.1~2010.6.30



人と自然を大切にした価値ある製品づくりを

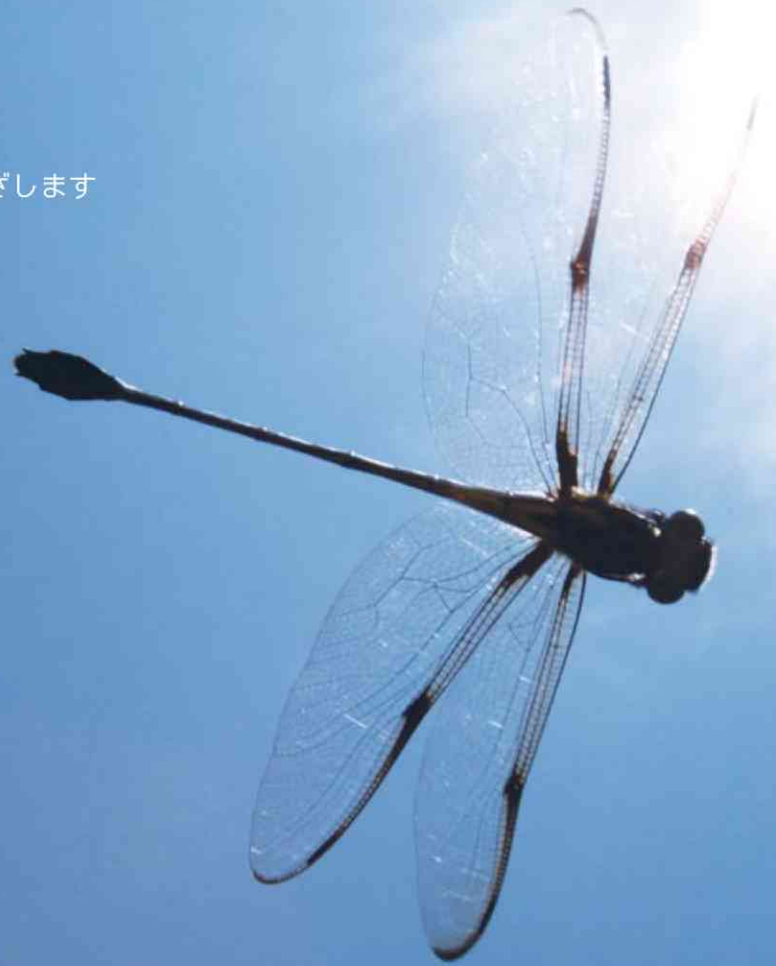
トンボ経営理念

私たちの使命

トンボブランドのもと、
最良のユニフォームメーカーをめざし、
社会に役立つ確かな価値を創造し、提供します

私たちの行動指針

- ・愛と汗の精神で、人を大切にし、全員経営をめざします
- ・信用を重んじ、約束を守り、誠実に行動します
- ・縁を大切にし、相手の立場を尊重します
- ・社会に役立つ、心の通った開発をめざします
- ・自然と環境に配慮した活動を行います



編集にあたって

「トンボCSRレポート2010」は、トンボのCSRに関する取り組みをご紹介します。レポートの作成にあたっては、できるだけわかりやすくお伝えするように心掛けました。また、皆様から頂戴した多数のご意見やご感想を基に、より充実した内容となるよう、今後も継続的な活動を行ってまいります。そして、毎年一匹ずつ増えています雄飛するトンボが表紙を埋め尽くすよう、永続していきたいと思っております。

INDEX

会社概要	3
トップメッセージ	5
ブランディング推進体制と活動報告	7
信頼される企業体制	9
お客様に安心と満足をお届けするために	11
ハイライト	15
環境活動報告	
環境方針と環境負荷低減活動	17
社会とのかかわり トンボの縁で広がる輪	19
トンボ絵画コンクール	20
環境活動とコミュニケーション	21
社会的活動報告	
ビクトリースポーツ教室・「キラク川柳」	23
制服着こなせセミナー	24
ユニフォーム研究開発センター・八正館	25
工場見学・財団法人 八正会	26
健全な企業風土づくり	27
沿革	30



会社概要

社名	株式会社 トンボ
URL	http://www.tombow.gr.jp
会社設立	大正13年5月10日(創業:明治9年)
資本金	1億8千万円
代表者	取締役社長 落司 量則(おとし かずのり)
従業員数	726人(2010年4月末現在)
本店所在地 玉野本社工場	〒706-0224 岡山県玉野市八浜町大崎1212 TEL.(0863)51-1515 FAX.(0863)51-2526
事業所所在地 本社事務所	〒700-0985 岡山県岡山市北区厚生町2丁目2-9 TEL.(086)232-0311 FAX.(086)225-4094
東京支店	〒136-0071 東京都江東区亀戸2丁目34-4 TEL.(03)5626-2251 FAX.(03)5626-2265
横浜ランチ	〒222-0033 神奈川県横浜市港北区新横浜2丁目7-1 日総第14ビル 2F TEL.(045)473-8705 FAX.(045)473-8719
大阪支店	〒540-0025 大阪府大阪市中央区徳井町2-1-1 TEL.(06)6942-5551 FAX.(06)6942-5549
岡山支店	〒700-0977 岡山県岡山市北区問屋町22-101 TEL.(086)241-7830 FAX.(086)241-7856
広島営業所	〒733-0842 広島県広島市西区井口5丁目3-4 TEL.(082)270-5121 FAX.(082)270-5123
松江営業所	〒690-0047 島根県松江市嫁島町13-5 TEL.(0852)23-3211 FAX.(0852)27-5387
兵庫出張所	〒672-8071 兵庫県姫路市飾磨区構1丁目94 TEL.(0792)31-2522 FAX.(0792)33-4522
愛媛出張所	〒790-0014 愛媛県松山市柳井町1丁目15-9 TEL.(089)921-6888 FAX.(089)921-6855
福岡支店	〒811-2207 福岡県糟屋郡志免町南里6丁目8-1 TEL.(092)937-3730 FAX.(092)937-3750
ユニフォーム 研究開発センター	〒706-0224 岡山県玉野市八浜町大崎1212 TEL.(0863)51-1517 FAX.(0863)53-9009
岡山工場	〒700-0034 岡山県岡山市北区高柳東町8-1 TEL.(086)252-1131 FAX.(086)253-4432
美咲工場	〒708-1523 岡山県久米郡美咲町吉ヶ原954 TEL.(0868)62-0122 FAX.(0868)62-0797
玉野物流 センター	〒706-0224 岡山県玉野市八浜町大崎1212 TEL.(0863)51-1522 FAX.(0863)51-1243
紅陽台物流 センター	〒706-0134 岡山県玉野市東高崎25-8 TEL.(0863)71-4466 FAX.(0863)71-4471

「事業内容」

スクールユニフォーム、スポーツウエア、
ビジネスユニフォーム、介護ウエアなどの
企画、製造、販売

「関連会社」

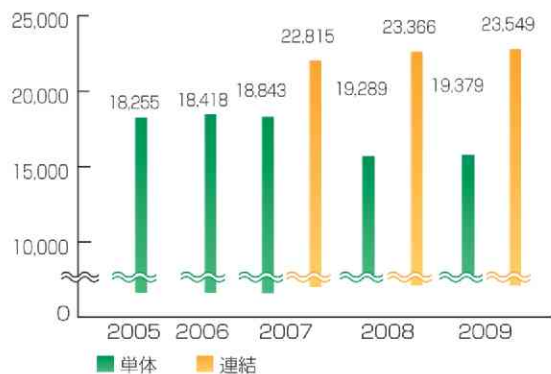
北海道トンボ株式会社
秋田トンボ株式会社
宮城トンボ株式会社
福島トンボ株式会社
関東トンボ株式会社
茨城トンボ株式会社
株式会社トンボ繊維
長野トンボ株式会社
株式会社トンボメイト
徳島トンボ株式会社
グローイング株式会社
南九州トンボ株式会社
株式会社マイク
株式会社モリ商会
トンボソーイング株式会社
サントンボ服装株式会社
株式会社ハートヒルズ
株式会社トンボシステム
株式会社トンボ保険サービス



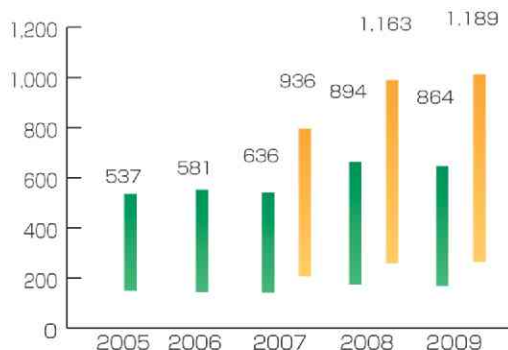


ホンサナエ

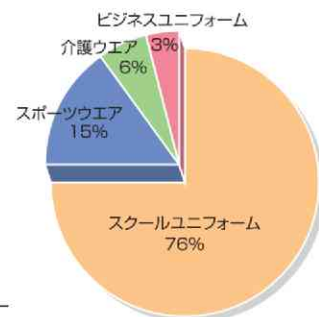
■売上高推移表(単位:百万円)



■経常利益推移表(単位:百万円)



■売上高構成比率 (単体)



■主要ブランド



本社ビル(岡山市)





134年目のブランディング



代表取締役社長

落 司 量 則

一時ほどではないにしても、依然として先行き不透明で見通しがききにくい状況です。こんな時期は、家庭も企業も模様眺めで新しい行動が起きにくいものです。そんな時節に、たまたまではありますが、当社はトンボブランドの価値向上をめざして、ブランディング*1活動をスタートさせました。今のタイミングで何故?と疑問に思われる方も多いと思いますので、紙面を借りて、このことに触れたいと思います。

当社にとって最大のCSRは企業持続性

まだCSR概念が一般的でない時代から、著名な企業家の多くが、企業は持続してこそ意味がある、あるいは、社会や顧客に価値をもたらさない企業に持続性はないと喝破され、企業持続の重要性を説かれています。

当社は、ファッションアパレルではなくユニフォームアパレルなので、一般的にはトレンドや嗜好の変化を受けにくいと言われることがあります。

また、契約に基づく長期供給が前提、つまり需要予測と生産見込みが立てやすい業種であることも(アパレルに付き物の)リスクが少ない業種と見なされる場合があります。

しかし、何年も着用いただくユニフォーム故に、お客様に対して安定供給する義務があり、企業の持続性と安定は特に重要だと考えています。

持続とは変化し続けること

ところで、ここで言う持続性とは、経営の持続性のことであり、商品やサービスのあり方は、時代に先駆けて変革し、お客様に提案する積極性が必要です。

一例を挙げれば、ユニフォーム業界は、とすれば、備蓄在庫や生産安定性の観点から、納入している商品の変更に腰が重い傾向があり、はなはだしい場合は、明らかに古くさく見えるシルエットや色、素材のまま納入され続けている場合があります。

もちろん伝統を重んじて取替えて変えないことにこだわっておられる場合は別ですが、通常、ユニフォームとは、その組織や機関のあり方を衣服で表現するものですから、そのようなユニフォームは先進性の点ではマイナスイメージを増幅することになりかねません。

当社は、時代で変わる物差し(指標)による見直しや、技術革新で、より良いものが出来たらいち早く取り込むなど、変化を厭わないことが大事だと考えています。

商品や事業であくなき変化を追求すること。そしてその姿勢を変えない企業であること。この一見正反対の行為を統合するものこそ【ブランド】であり、当社が、今取替えてブランディングに着手するゆえんです。



ニホンカワトンボ

CSRとブランディングは車の両輪

しかし、常に動いている企業は、お客様から見れば刻々その姿が変わって見えるもので引き続きファンとなっていただくためには、

- ニーズにあった商品
 - 信頼できるブランド
- が前提で、当社の場合は、信頼をになう企業活動として
- 姿勢の良い企業であること(CSR経営)
 - 顧客本位の商品とサービス開発(CS経営)
 - 学園生活や業務を彩る高いデザイン性や文化的洗練を掲げています。

その実現に向けて日々の業務や仕組みを一定の方向に揃えて整えることが、当社のブランディング活動であり、経営的にも重要課題であり、社員全員で取り組むことにしています。ブランディングというと、広告宣伝活動のことだと捉えられる方も多いと思いますが、当社の場合は愚直なまでのCSR経営と、顧客満足最優先を行動指針にした社員の気づきや業務改善なのです。

接点を磨く

別の言い方をするなら、当社のブランディングとは、当社とお客様の接点を磨くことで、採用いただく学校や企業、施設の方々、販売していただくお店の皆さんと当社の接点、つまり商品そのものはもちろん納品時のパッケージ状態、お伺いする社員の姿や応答、さらには電話の受け答えや書類一枚に至るまでを最善の姿に改めようとする活動です。

勤勉と汗を流すことを美德とし、温かいところで相手に接する『愛と汗の精神』や『ご縁を大切に』の営業姿勢を基本に、新しく定めた『こちよさを、ひとつずつ』をスローガンに、ものづくりとサービスの向上をめざしています。

なお『ご縁を大切に』とは、社内では昔からよく知られた言葉で、例えば販売部門では、この言葉を解釈して『売ると思わない、結ぶと思え』と使ったりしています。

その意味は、単純な売り買いではなく、商品をいったん納めるからには、その後のフォローはもちろんのこと、先々は、製販同盟として夫婦の契りにも匹敵する思いで取り組み、の意味なのです。

これから、年々脱皮を繰り返すトンボをじっくり観察していただきますようお願いいたします。



※ 1 ブランディング お客様にとって価値のあるブランドを構築するための企業活動。



ブランディング推進体制と活動報告

「こちよさを、ひとつずつ」

トンポでは、お客様にお届けする商品・情報・サービスに対し、社員ひとりひとりができる「こちよさを、ひとつずつ」をスローガンにブランディング活動を推進しています。このブランディング活動が、お客様が喜ぶ、感動する、そしてお客様と共に伸びる提案を行える「ファーストコールカンパニー」につながればと考えています。

ブランディング活動を推進するために、「環境・CSR推進本部」の下部組織として【ブランディング推進委員会】を設置しブランディングスローガン・シーズンテーマの実体化運動の促進、実体化したものをトンポ全体の基本動作、標準動作にしていく活動を行っています。

シーズンテーマ：「ご縁を大切に」

今期(2009年7月～2010年6月)のシーズンテーマは、トンポの経営理念のひとつでもある「ご縁を大切に」とし、各部門がこのテーマに沿った自部門課題(活動テーマ)を設定し、全社17部門から選ばれた委員を中心に、日々活動を行っています。ここでは5部門のブランディング活動について、紹介させていただきます。

■岡山本社：接客勉強会

岡山本社ではお客様に心をこめた対応をして気持ちよくお帰りいただけるようにということを目指して、接客勉強会を行いました。

春と秋の年2回の展示受注会に取引先のお客様が来られた時に誰でも心温まる接客ができるよう、平成21年10月30日と11月2日の午後2回ずつの計4回開催しました。

岡山本社の一般社員、総勢45名が参加し、挨拶やおじぎの仕方、応接室への案内や席次、お茶、コーヒーの出し方、飲み方などを勉強しました。

一通りの説明を聞いた後みんなでロールプレイングを行い、できているかお互いに確認しました。



■美咲工場：トンポイメージアンケートと改善

「地域に愛される企業に」

美咲工場では、課題テーマにそって工場の近隣にお住いの方々に、アンケート調査を実施しました。

調査結果

- ①工場の知名度…92%が知っている
- ②社員の知名度…84%が知っている
- ③工場のイメージ…学生服39件、ジャージ14件 他
- ④工場への要望…売り出し21件、地域の企業として発展して欲しい7件 他
- ⑤その他意見…売り出し・産業祭に関すること4件、中国人より日本人の採用を2件 他

今回の調査で良い点は継続し、地域の方との係わり不足とのご意見に対してはボランティアで清掃を行うなどの活動を通じ、コミュニケーションを深めるよう努力しています。





コヤマトンボ

■玉野本社工場(生産部)：5S委員会

生産本部のブランディングテーマは「5S(整理・整頓・清掃・清潔・躰)委員会活動」です。

生産部門は製品の品質を通して、お客様に接する機会が多く、良い商品を作るためにこのテーマに決定しました。各部署から委員を募り、毎月の委員会で活動の確認を行っています。毎月の職場巡回、標語募集により気運を高め、卓上の整理や職場・マシン清掃に力を入れています。日頃から、身の回りの美化を意識することで、きれいな商品づくりに結びつける活動です。



整理前



整理後

■開発本部：ブランディング掲示板「トンボのこころ」

当社のブランディングは、トンボ品質(クオリティ)を高めることを何よりも優先していますので、対外的な広告宣伝活動よりも、社員の意識を整え、日々の業務に磨きをかけることが重要です。

しかし、部門がたくさんあり、社員のもたくさんいる中で、何をどうすれば【トンボ品質】にかなうのか、現在のルールや手法が合っているのか修正が必要なのか、さまざまに解釈されれば、かえって混乱が予想されます。そこで、当社の業務に関する基本原則を、経営トップが具体的に示す掲示板「トンボのこころ」を各事業場に設置し、社内共有情報として配信することになりました。

今後、掲示板は年3回ペースで更新され、内容や執筆者も多彩になっていく予定です。

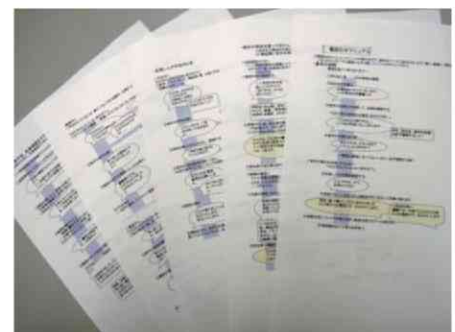


■東京支店：全てのお客様をトンボのファンに

東京支店は課題テーマの基、学校様、販売店様がトンボに対して好印象を持っていただけるような行動を心掛けています。営業の最前線として、実際に学校様や販売店様に接する部署ですので、「基本動作の徹底とお客様への真摯な対応」を社員ひとりひとりが心掛けています。

お客様訪問後に感謝の気持ちを込めて、直筆でお礼状を書いています。

また、電話応対で実際どのようなお問合せが多いか、社内アンケートを行い、ケース毎にどのような回答が一番ご満足いただけるかを検討しております。



コーポレートガバナンス^{※1}

当社は、ステークホルダー^{※2}との良好な関係のもと、客観性・透明性の高いガバナンス体制の構築と、持続的な企業価値の向上をめざし、「取締役会」及び「経営会議(執行役員会)」による迅速な意思決定を行い、各事業部門にて業務執行されます。

取締役会

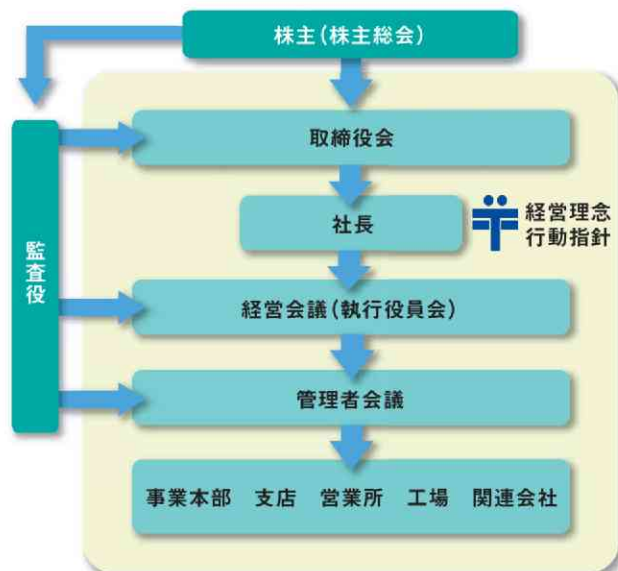
株主総会にて選任された「取締役」による経営の最高意思決定機関。

法令及び定款に定める事項、その他年度予算や決算の承認、中期経営戦略計画の策定など、重要事項を決定。

監査役同席のもと、毎月開催。

経営会議

取締役・執行役員により、会社の経営に関する基本方針の協議や、会社の業務執行、戦略に関する重要事項を決定。毎月開催。



CSR推進体制

社会が必要とする企業として、「私たちのCSR^{※3}指針」を掲げ、社員一人ひとりが、「私たちのCSRチェックリスト」で、その行動をしっかり確認しながら企業活動に取り組んでいます。そして、企業として持続可能な成長および、社会と調和した活動をめざします。推進組織は、社長直轄の「環境・CSR推進本部」において、委員会を定期開催し、CSR活動を推進しています。社内外とのコミュニケーション活動は「広報課」「お客様相談室」「環境事業企画室」を設置し、積極的な活動を展開します。また、「安全衛生委員会」により、安全衛生面の改善活動を実施しています。そして、「EMS推進事務局、QMS推進事務局」により、「ISO14001^{※4}」「ISO9001^{※5}」に沿った環境マネジメントシステム、品質マネジメントシステムの構築と充実を図っています。

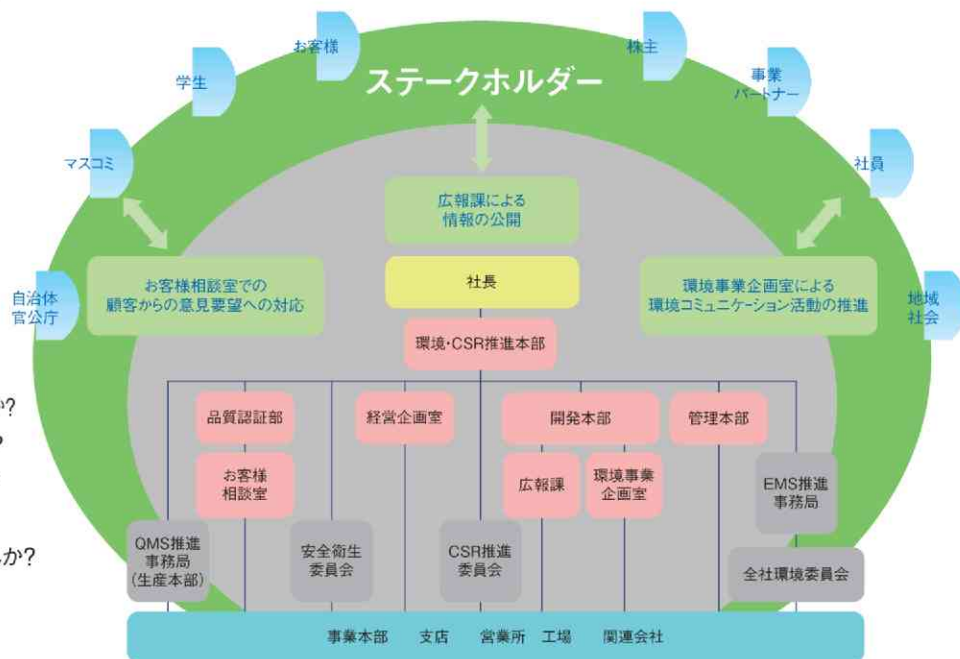
■ 私たちのCSR指針

～社会が必要とする企業として～

- ・人を大切にする経営を進めます
- ・適正品質と品質保証に努めます
- ・環境保全活動を推進します
- ・社会貢献活動を推進します
- ・法令、倫理規範を遵守します
- ・適切な情報開示を行います
- ・トンポブランドに恥じない行動をします

■ 私たちのCSRチェックリスト

- その行動、その商品はトンポブランドを傷つけませんか?
- 人の気持ちや意見を大切にしていますか?
- 自信を持ってその商品を世に出せますか?
- 法律やルールに触れませんか?
- 家族や大切な人を裏切ることになりませんか?
- 社会に迷惑をかけませんか?





ベニトンボ

CSR活動の更なる推進に向かって

当社がCSR(企業の社会的責任)を根幹的な経営課題として捉え、それまでの環境活動に加え、より広範な活動をCSRの名のもとに展開しはじめて早4年が経ちました。社員の皆さんの積極的な活動により着実な進展を遂げています。

長年続けています「We Love トンボ」絵画コンクールや学校ビオトープづくり支援、また様々な環境保全団体の支援活動もすっかり定着しました。学校での環境授業やマイバッグ作りの指導、そしてCO2の排出削減につながる製品開発や着用後の回収システムについても研究が進んでいます。






人材育成のための「トンボスクール」も今年は4年目となり、一層の充実と社員の皆さんの積極的な取組みが期待されます。また、労務面では管理職を含めた長時間労働の是正努力やメンタルヘルス対策、子育て・介護支援対策等も整えてきました。定年制の見直しや高齢者雇用も進んでおり、「いきいきと働ける職場づくり」に向けて今後も努力していきます。

また、「スポーツ教室」「着こなしセミナー」による学校生徒さんたちとの縁づくり、「ユニフォームミュージアム」「八正館」等への多くのお客様をお迎えできたことなどこれまで培ってきましたステークホルダーの皆様との関係をより確かなものとするよう、トンボグループはこれからもCSR推進企業として持続的な活動を展開してまいります。



常務取締役
田窪 啓二
環境・CSR推進本部
推進委員長

2010年6月

ステークホルダー	主なコミュニケーション手法
お客様	お客様相談室 ユニフォーム総合展示会・ エコプロダクツ展・国際福祉機器展 等 商品カタログ 学校向け制服情報誌「スクーラー」 小売店向け情報誌「エスキューブ」 制服着こなしコミック「ガクスタ」 
株主	株主総会 決算報告書 社員持株会
事業パートナー	販売代理店・販売店研修 品質改善会議 販売会社・協力工場・仕先先オンラインシステム
社員 (社員・OB)	社内情報共有システム(トンボネット) 社内報 マンスリーレポート ブランディングブック キラク親睦会(会社概況説明会・親睦会) 
地域社会	 工場見学会(学校社会科見学) チャレンジワーク(中・高校生) 各種協賛(校内広報板提供) 社会貢献活動(河川清掃・ビクトリースポーツ教室)
自治体官公庁 マスコミ	プレスリリース 取材対応 各種経営指標報告
学生	会社説明会 インターンシップ受け入れ リクルート冊子
全体	 ホームページ トンボエコフォーラム CSRレポート トンボ歴史資料館案内 工場案内 会社経歴書 

※ 1 コーポレートガバナンス 企業統治、内部統制。企業が社会や個人のために、健全で持続的な企業活動を行うための仕組み。

※ 2 ステークホルダー 企業活動に関する利害関係者。

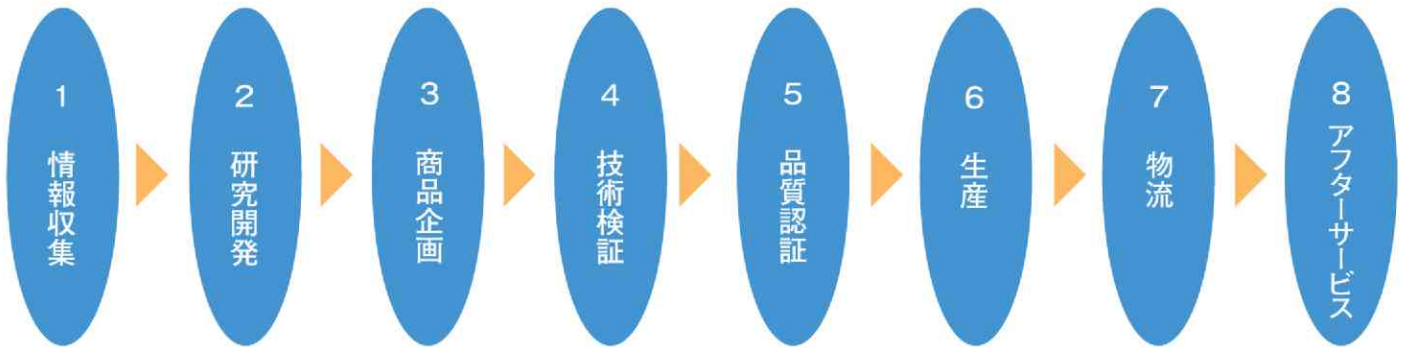
※ 3 CSR(Corporate Social Responsibility) 企業の社会的責任。社会における企業のあり方、地域社会の中での役割・責任。

※ 4 ISO14001 ISO(国際標準化機構)が定めた企業活動、製品およびサービスによって生じる環境への負荷低減等、環境経営に関する国際規格。

※ 5 ISO9001 ISO(国際標準化機構)が定めた「提供する品質やサービスの顧客満足度の向上」を目的とした品質管理の国際規格。

お客様に安心と満足をお届けするために

お客様目線での安心・安全・快適な商品をお届けする為に、常に物づくり・品質管理・サービスの向上を意識し、連携体制を強化しています。また、市場ニーズやお客様のご意見を取り入れる「ここちよさの実現」を目指しています。



1 情報収集～ニーズ把握

先生・生徒・保護者へのニーズ調査

制服に関するデザイン、コーディネイト、カラー、素材、着用状況等の傾向調査を毎年実施しています。1,000名を超える先生方と2,000名の生徒の皆さんに協力をいただき収集した情報は、整理・集計・分析し、街頭での実態調査とあわせて、商品企画に活かされます。

また、制服をケアされる保護者の方にも聞き取り調査を行い、ご意見を反映させるようにしています。

これらの情報をもとに、制服に関する旬な事柄を取り上げ学校向け制服情報誌「スクーラー」として発行し学校関係者等への配布も行っています。



街頭調査風景



アンケート用紙

2 研究開発

ユニフォーム研究開発センター

研究開発センターでは、見た目のイメージ(デザインと色)、着易さ、質感や肌触り、機能性、耐久性、ケアやメンテナンスのしやすさ、ディテール、価格などの各要素の研究と組み合わせを追究しています。

また関連部署へ研究結果を伝え、密接な連携を図っています。



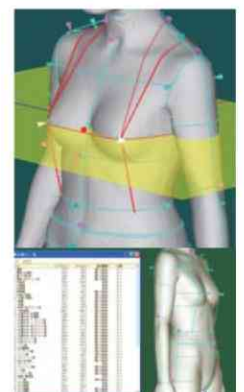
設計システムによりさまざまな角度から検証



裏地の検証

着心地を科学する「コンフォート・サイエンス」

毎日着る制服のための快適で美しいシルエットを実現するため、最新の3Dスキャナーで124ヶ所のサイズを立体的に計測し、生徒の標準ボディサイズを把握。多くの身体データを解析し、そのデータをパターンメイクに活かします。また制服サンプルを生徒に試着してもらい、意見を聞きながら、動作と着心地の確認も行っています。



3D計測イメージ

* 詳細を P15 に掲載しています。



アオサナエ

3 商品企画

デザイン・コーディネート

学校の独自性が求められている中、学校の顔とも言える制服は、生徒が誇りを感じ、魅力的なものである必要があります。さらに新技術や機能性など、さまざまな要素を考慮しながら最適なデザインを作り上げます。また、先生や保護者、そして生徒の感性にフィットするデザインと多彩なコーディネート提案を行っています。



素材選定

毎日着用する制服には様々な機能が要求されます。

耐久性：抗ピリング、耐摩耗 等

快適性：ストレッチ、撥水撥油
温度調節、UVカット
抗菌防臭、帯電防止 等

上質性：風合い、織り、色彩 等

ケア性：洗濯可能、形態安定 等

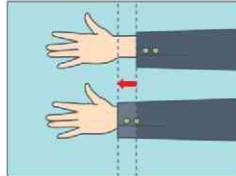


どのような機能が求められ、優先順位はどうか学校毎に違う機能の選定と、メリット、デメリットの見極めは非常に重要です。

成長設計・安全への配慮

制服は著しく成長する時期だからこそその配慮が必要となってきます。袖口を伸ばせる仕様やウエストの調節機能など、生徒の皆さんの成長に配慮した設計を行っています。

また、車のヘッドライトなどの光を効率的に反射するワッペンやボタンを制服につけることにより暗所での生徒の皆さんの安全に配慮しています。



袖口グローイング



再帰反射ワッペン

着崩し対応

「美しい制服姿」を創るためにプライドを持って着用することができ、着崩しにくい制服のデザインと仕様の工夫を行っています。

学校ニーズに応じて例えば、巻上げ防止用のカーブベルトスカートや裾出し対策シャツ、ズリ下げ対策スラックスなど生徒の皆さんの制服姿が美しくさわやかなものになることを願い企画しています。



巻上げ防止スカート



無理矢理1回折り曲げた状態。プリーツも乱れ巻上げができない。

4 技術検証

トンボ工房

ユニフォームも時代の変化にともなって、デザイン・パターン・仕様・素材・副資材などが、多様化してきています。様々な顧客ニーズに応えるために、「品質向上委員会」を発足し、品質向上についての課題を検討しています。トンボ工房は主に縫製技術面から、課題の研究・検証を繰り返して行い、その技術を量産に役立てています。また、新しい技術は、技術勉強会を通して、熟練技能士達に水平展開されていきます。



お客様に安心と満足をお届けするために

5 品質認証

トンボ品質基準

トンボの品質基準は、繊維製品の品質管理について「材料面の安全性」「縫製等の加工基準」「服種別の検査基準と物性基準」等の必要事項を定め、随時見直し、改訂をしています。また、この品質基準を基に、ISO9001に準拠し、商品品質のみならず、物作りのプロセスやシステムにも監視体制を設置し、お客様に満足していただける品質の維持、向上を図っています。



品質の認証と試験室

生産に先立ち、商品がお客様に満足と安心・信頼を得られる品質であるのかを、トンボ品質基準で適合評価認証を行っています。特に新規物件は本生産前に厳密な検証を繰り返し行っています。また試験室には、①基準の維持・管理 ②物性の研究・把握 ③物性試験・事故解析するための設備を整え、設計品質向上に反映させています。合わせて関連部門への提起を行い、品質の改善・向上に役立っています。



素材の検証

6 生産

検反機による事前検査

生産前に生地キズ・汚れ等を未然に発見するため、裁断前の段階で「検反機」を使用して事前検査を行っています。また、検査データは生地メーカーへフィードバックし、共同開催する生地品質向上会議にて改善案を検討しています。



針管理

1995年7月に、PL法の施行を受け、当社では、PLP (Product Liability Prevention) 推進組織を編成し、『製品安全対策規定要綱』を発行し、ISO9001の運用と併合して、全員参加の安全性確保と品質安定のための企業活動を展開しています。針管理規定においては、「使用針登録台帳」・「折れ針復元管理台帳」等の登録・記録をしています。



「Tombow」刻印入りの手縫い針



折れ針復元管理台帳

縫製工程

縫製工程では、オペレーターひとりひとりが、品質向上・縫製不良撲滅に対する意識を持ち、お客様に最良の商品をお届けする気持ちを込めて生産しています。また、技術指導員の資格を有する指導専任スタッフが、日々確認・指導を行っています。毎日10時と15時には、全員が業務を止めての『チェックタイム』があり「次工程はお客様」の精神で、品質のチェックを行っています。



製品検査

「トンボ品質基準」・「服種別検査基準」・「検査手順」に基づいて、『仕様書』・『作業指図書』を品質記録として全数の検針・検査を実施しています。外観検査では上着を中心に、仕上プレス完了後、立体ボディに着せ付けての外観検査を実施しています。



製品検査



外観検査



コノシメトンボ

7 物流

保管・出荷

よりお客様に安心していただけるよう、昨年秋からTTPS(トンボ トータル ピッキング システム)を導入しました。出庫から梱包までの作業を、従来の目視検品からバーコードによる読み取り検品に変更し、より出荷の正確性が高まりました。

また物流センターと生産工場を併設したことにより、縫製から入庫、保管から出庫の効率が良くなり、お客様へより早く正確に商品をお届けすることが可能となりました。



バーコードによる読み取り検品



工場からの入庫

8 アフターサービス

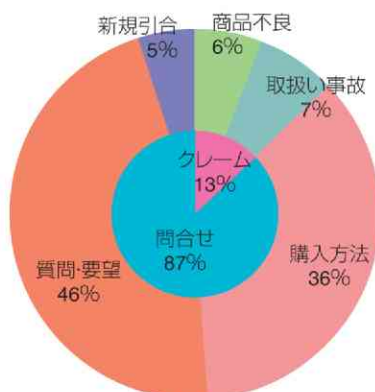
メーカーとしてお客様により良い商品と安心をお届けするため、全国のグループ販売会社・代理店と一体となり、販売後もアフターサービス体制を整えています。



お客様相談室

お客様のお問合せやご相談・ご意見を専任体制で承っています。常にお客様の立場に立った迅速かつ丁寧な対応を心がけ、お問合せや営業クレームは関連部署とも連携して即時対応しています。商品クレームは部署の垣根を越えた改善プロジェクトに取り組み、原因の解明と抜本的な改善・改良に生かしています。

また、お客様からの情報は重要情報として関連各部門で共有化し、商品・サービスの品質向上に反映させていきます。

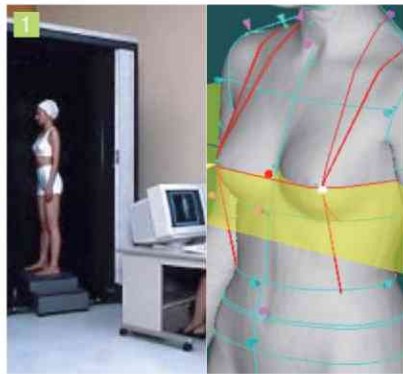


お客様相談室への相談内容の内訳
2009年3月～2010年2月末

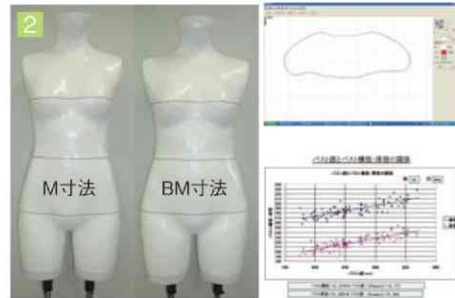


■快適で美しいシルエットを実現するための「着心地を科学する～コンフォート・サイエンス」

トンボでは、制服の快適で美しいシルエットを実現するため、「人のあらゆる動き・人体の構造や体型・色彩やカタチの心理的影響・快適性」の研究を行い、ものづくりに活かしています。



生徒の標準身体データを把握するために、最新の3次元人体計測システム(3Dスキャナー)で生徒の身体の124ヶ所(高さ47部位、周囲や幅77部位)に至るまでを計測し、解析します。



解析した「標準身体データ」を基にリアルボディ原型を作製。真実の数値から導き出したリアルボディは、一般的なボディとは根本から異なり、10代の生徒特有の体型を再現しています。



リアルボディ原型を使って熟練パタンナーが立体的に型紙をつくり、服のサンプルまで仕上げていくことを研究。体型と服のゆとりを考慮しつつ、美しいシルエットと着心地にこだわり、立体的なパターンをつくります。



制服のサンプルを何人も生徒モデルが実際に試着。意見と感想を聞きながら、動作と着心地の確認を行います。さらにコンピューター画像で3Dバーチャルモデルによる試着を行い、分析を何度も繰り返し、制服をつくりあげます。

最新の3D技術と人の感性が集結した、生徒や先生が求める快適で美しいシルエット「コンフォート・サイエンス」の世界。それは、生徒や先生の声にお応えして、常に改良を繰り返す終わらない追究の道です。

■メディカルウェア

昨年7月、キラク事業部は、ヘルスケア事業部と名称を変更しました。その最大の理由は、看護師向けウェア(トンボメディカル)の開発と販売にありました。新しい白衣は、従来にない2つの特徴を持っています。

商品特長

①世代ごとの体型差を考慮したパターン展開(20代・40代、2体型展開によるグッド・フィッティング)

看護師は、20代と40代の就業人口が多い為、その世代体型に合わせたパターンを用意することで、より快適なフィット感ときりっとした見かけを実施しました。

②新素材スーパーストレッチ丸編ニットとトリコットの開発

介護衣料で培ったノウハウを基に、縦横ストレッチでありながら、耐洗濯性の高い丸編ニット素材とトリコット素材の開発を行いました。この素材を採用することにより、身体がスムーズに動き、様々な作業・動作時の衣服追従性が高まりました。また、着用時の体感ストレスを大幅に軽減しました。

モニター試着では約8割の方から、着心地が良く、動きやすいと評価をいただいています。





オツネトンボ

■「YONEX」スポーツウエアデビュー

平成20年9月にヨネックス株式会社と業務提携し、学校体育衣料の製造・販売をすることになりました。平成21年6月に「YONEX」ブランドによる商品を発表。世界のトップアスリートを支えるスポーツギアのエキスパート「YONEX」とスクールウエアのエキスパート「TOMBOW」の技術を融合し、「学校体育のGEAR×WEAR」をコンセプトにスポーツウエアに新たな価値を創造します。

商品特長

①運動工学に基づいた体の動きをサポートするパターン設計
体育授業では様々な競技や運動をします。特に上腕や脚の動きを妨げないように運動量を備えた新パターンを採用し、ストレスのない運動を可能にしました。

②衣服内環境を研究し蒸れや汗による不快感を解消する機能
生地では毛細管現象を応用した編組織により高い吸汗性を実現。また部分的にメッシュ素材を使い気化熱を効果的に排出させ、運動時のべト付きや蒸れなどの不快感を解消する機能を装備しています。

③環境保全に配慮したエコロジー素材を開発
ペットボトルリサイクルポリエステル繊維やケミカルリサイクルポリエステル繊維を採用し循環型社会の形成とCO₂削減に配慮した素材を採用しています。また高い耐久性を備えることで長く着用できることもエコロジーのひとつとしています。

④着用者の感性を刺激するデザイン&カラー
スポーツウエアを着ることで「スポーツが楽しくなる」そんな魅力満載の商品をラインナップしました。



■モーダルシフト※1

環境への配慮から大口取引先への輸送を、トラック輸送から鉄道コンテナ輸送へ一部転換することで、CO₂排出量の削減に取り組んでいます。昨年は試験運用を行い、10tトラック5台分で19.0tのCO₂排出量削減ができました。今年は1月から3月の期間で、12台分のコンテナ輸送を行い、53.5tのCO₂排出量を削減しました。



※1 モーダルシフト トラックによる幹線貨物輸送から、大量輸送が可能な海運または鉄道に転換すること。CO₂排出量の抑制などに効果がある。

環境方針

基本理念

株式会社トンボは、創業時よりのブランド「**トンボ**」を旗印として、最良のユニフォームメーカーをめざし、地球環境の保全が最重要課題の一つであることを全社員で自覚し、次世代に向けてトンボが雄飛する美しい地球環境のもと、豊かで住みよい循環型社会を実現する企業活動を展開し、社会に貢献します。

基本方針

1 環境マネジメントシステムの確立と継続的改善の推進

私たちは、国際規格に基づいた環境マネジメントシステムを構築し、実施し、維持し、定めたテーマに沿って、環境パフォーマンスの継続的な改善活動を推進します。

2 環境保全活動の推進

私たちは、環境に与える影響を認識し、評価し、汚染の予防を含めて、環境影響を考慮した企業活動を展開します。

3 環境上の法的要求事項及びその他の要求事項の順守

私たちは、当社の環境側面に関係して適用可能な法的要求事項及び当社が同意するその他の要求事項を順守します。

4 企業活動の展開

私たちは、ユニフォームウエア等の企画、設計、製造、販売において、環境影響を考慮し、また地球温暖化防止に向け、日常業務と一体化した活動を展開します。

- ①環境に配慮した素材の導入と製品開発・販売の推進。
- ②使用原材料に含まれる有害物質の安全基準の順守。
- ③資源の有効活用及び省エネルギーの推進によるCO₂排出量の削減。
- ④3R(リデュース、リユース、リサイクル)の推進。

5 自然保護活動の推進

私たちは、以下の自然保護活動を推進します。

- ①トンボ環境委員会活動の推進。
- ②トンボ絵画コンクールへの協賛支援。
- ③トンボと自然を考える会への協賛支援。
- ④学校のビオトープづくり、環境学習への側面支援。

6 環境方針の周知徹底と公開

環境方針は、社員並びに当社の企業活動への協業者に環境教育を通して周知し、全員が理解、実践できるよう啓発活動を推進します。また、この方針は広く一般の人々に公開して、社会と共生する環境活動を推進します。

7 環境方針の見直し

定めた環境目的・目標が状況の変化に適切できるように、また環境方針が当社にとって適切かつ有効であり続けるように、私が見直しを行います。

2008年7月1日宣言

代表取締役社長 **落司 量則**

環境負荷の全体像

私達にとって、商品ライフサイクルを考えた環境負荷低減は、重要なテーマです。昨年より、原料調達時の環境負荷の把握を始めましたが全体像の把握までに至りませんでした。次年度よりの公表を目指し努力いたします。

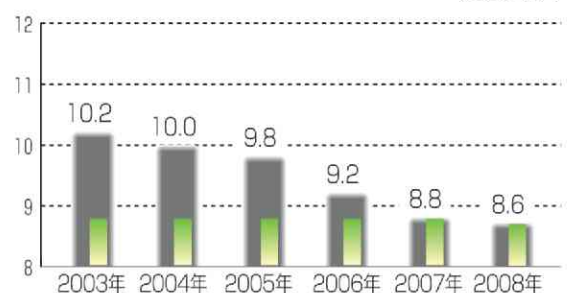
二酸化炭素(CO₂)排出量の推移

CO₂排出量

全事業所で、電気、水道、ガソリン、プロパンガス、都市ガス、灯油、A重油、軽油について、CO₂排出量を削減する取り組みをしています。売上1億円当たりのCO₂排出量を、2003年から2008年の間で見ると、10.2から8.6(単位:t-CO₂/億円)に15.7%減っていますが、2009年は微増が予測され、今後は2008年の実績値を維持していくことが目標になります。なお、当社のCO₂排出量は、電気、A重油、ガソリンの3項目が全体の93%を占め、特に電気だけで全体の71%を占めるという大きな特徴があります。

売上1億円当たりのCO₂排出量

t-CO₂/億円



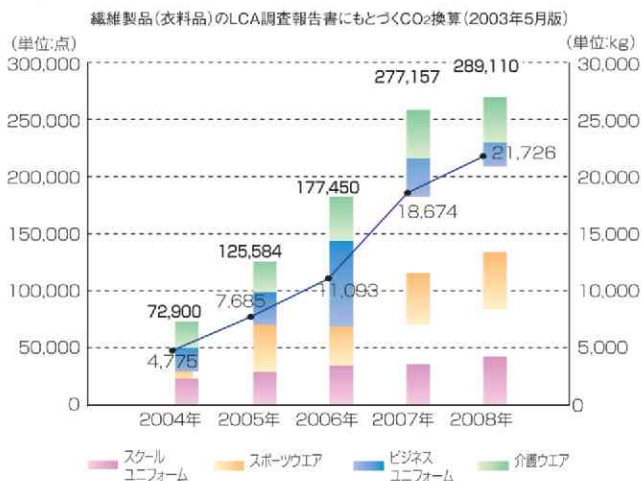


ミヤマアカネ

商品における環境負荷低減

PETボトルリサイクル素材商品の普及

再生PET素材を使用した商品は289,110点でした。バージンポリエステル商品と比べて21,726kgCO₂を削減したことになります。製品全体にしめる再生PET素材の商品販売比率は4.8%になりました。



主要商品のLCAデータ

LCAとはライフサイクルアセスメント(Life Cycle Assessment)の略で、製品やサービスのライフサイクル全般において地球環境に与える負荷を分析し、環境負荷の低減を図るための手法です。商品のライフサイクルにおける環境負荷の値を知ることは負荷削減のための第一歩です。当社の代表的な商品についてLCA手法を用いて環境負荷の値を計算しました。

算定については2003年5月版繊維製品(衣料品)のLCA調査報告書(経済産業省製造産業局繊維課)に基づき、自社の工場、運輸等のデータを組み込み計算しています。

	アイテム	混紡率(%)	素材再生 ペット率(%)	CO ₂ 排出量(kg)
スクール ユニフォーム	女子ブレザー	ポリエステル 60%	60	10.6
	スカート	毛40%		6.0
スポーツ ウェア	ジャージ上	ポリエステル 95%	63	3.4
	ジャージ下	綿5%		3.0
介護 ウェア	ジャージ上	ポリエステル 95%	63	3.3
	ジャージ下	綿5%		3.0
ビジネス ユニフォーム	ベスト	ポリエステル 70%	70	4.8
	スカート	毛30%		4.9

商品輸送は平均値として800km移動として計算しています。
取り扱いが家庭洗濯にて3年間9回(スポーツ、介護ウェアは50回)を基本に計算しています。
新工場移動により、新たに計算をしました。

製品着用後の環境負荷低減

制服着用後に回収をして素材の混紡率に応じて**3**つのリサイクルシステムでリサイクルに取り組んでいます。

1.ウールリサイクルシステム

ウールを含む素材のリサイクルです。学校や職場で着用された制服を回収し、マットやモップとして再商品化し、還元する「回収型リサイクル」に取り組んでいます。

2.エコログリサイクリングネットワーク

高混率のポリエステルを含む素材のリサイクルシステムです。ポリエステルを使用した商品を回収、分解してポリエステル部分をボタンやファスナーに綿はアルコールにして再利用します。このシステムは広域認定の許可を受けました。エコログリサイクリングネットワークのマークのついた商品は回収後、指定運輸業者により運ばれ、工場加工されます。ポリエステルは繰り返しリサイクルが可能です。

3.ポリエステルケミカルリサイクルシステム

ポリエステルや一部綿を含む素材のリサイクルシステムです。ポリエステル繊維など殆どのポリエステル製品から添加剤、着色剤を分離し、高純度ポリエステル原料(DMT)を作ります。石油から作るものと同じレベルのポリエステルが製造される完全循環型のリサイクルシステムです。これにより生産時の使用エネルギーは約70%、CO₂排出は約80%と省エネルギーで環境負荷低減にも貢献します。

原材料、包装材料における環境負荷低減

パッケージにおける環境負荷低減

詰襟、ブレザー、セラー服などの包装箱は古紙と非木材紙ケナフ・バガスを使い、大豆インキで印刷しています。昨年より、更なる環境負荷低減のために段ボール素材を採用、対象となる商品の約50%を置き換えました。全体でも30%が段ボールを使ったパッケージになりました。

社会とのかかわり トンボの縁で広がる輪

私達は自然のめぐみのお蔭で暮らしています。

自然や環境の大切さを「トンボ」を通して学生をはじめとした多くの人々に伝えて行きたいと考え、出前授業やビオトープの支援により環境意識の啓蒙活動を行うと共に、環境保全活動に取り組む人たちを支援し、ネットワークの輪を広げています。

■環境授業

小学校から高校までを対象に環境教育と自然環境学習の出前授業やプログラム支援を行っています。制服のリサイクルや制服残布を活用したマイバッグ作り授業、ビオトープ作り、里山体験授業など11回の実績です。2年以上継続して実施する学校が増えています。



■学校ビオトープコンクール支援

2年に1回開催の「全国学校ビオトープ※1コンクール」。入賞校がその活動と成果を発表します。トンボでは、良い事例をスクールビオトープメールマガジンやホームページで紹介しています。今年度はメールマガジン取材校の船橋芝山高校が財団法人日本生態系協会会長賞を受賞しました。



主催 財団法人日本生態系協会
<http://www.ecosys.or.jp/eco-japan/>

■トンボ王国支援

高知県四万十川の傍にある世界初のトンボをテーマとした体験・学習施設、四万十川水系の魚を展示した「さかな館」も併設しています。当社は1986年よりトンボ自然公園づくりをサポート。支援母体の「トンボと自然を考える会」の会員として、社員共々に応援しています。



トンボ王国あきつお(四万十川学遊館)

■茨城県「アサザプロジェクト」支援

小学生から、お年寄りまで18万人が参加してきた霞ヶ浦・北浦の自然再生事業。流域170校を超える学校ビオトープでアサザ※3が育てられ、植えつけられて来ました。外来魚の捕獲や流域の休耕田の再生など市民・企業・自治体の連携で新しい社会作りのモデルとなっている同事業をトンボグループは支援しています。

■学校ビオトープづくり支援

自然と触れあい、いのちの繋がりを体験できるビオトープは地域の自然再生にもつながる良い教材です。兵庫県たつの市立小宅小学校では、2年目の活動支援を実施しました。アキアカネが産卵できるビオトープの設計、施工を児童達と一緒にを行いました。



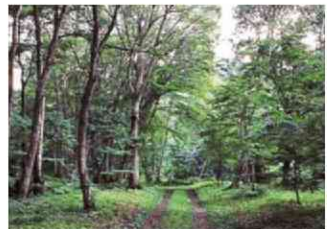
■森の聞き書き甲子園支援(第8回)

全国の高校生100人が森の仕事に携わってきた名手・名人100人を訪ね、その技や人生を「聞き書き」します。今回より「海川の聞き書き」も加わり、世代を超えた交流が伝統的な暮らしや森・海の大切さを高校生達に伝えます。卒業生達が共存の森活動を全国5箇所で開催、地域の人達と交流を深めています。共存の森ネットワーク
<http://www.kyouzon.org/index.html>



■C.W.ニコル氏と「アフンの森」を支援

長野県黒姫の飯縄山麓にあるアフン※2の森は、20年を超えるトラスト活動と管理により、トンボや多くの生きものが棲む素晴らしい森となりました。当社の自然環境活動(=グリーンアイ)のパイロット役をC.W.ニコル氏にお願いすると共に、森づくりの活動を支援しています。



アサザの植え付け



オナガサナエ

トンボ絵画コンクール

日本を代表する昆虫「トンボ」を観察し、描くことで生きもののつながりや大切さを感じてほしい。その思いが25年目を迎えるまでになりました。

1986年、創業110周年記念事業で、はじめたトンボの楽園「トンボ王国」作りの支援。

高知、四万十川流域で始まった活動を発展させ、トンボの棲む環境の大切さを広く伝えるために「WE LOVE トンボ」絵画コンクールの協賛を開始して四半世紀が経とうとしています。24回は応募総数166,903点、応募校数6,125校と前年より13,000点以上も増えました。中でも小学校からの応募が一番多く、全国の1/4の小学校から応募がありました。絵を描く楽しさや喜びをもってもらう、自然や人の営みを観察する目を養う、トンボの棲む環境の美しさに思いを馳せる人になってほしい。このような願いが支持され、理解されているお蔭だと考えます。

自然と接する機会が少なくなった現代の児童、生徒に観察することの大切さを伝えていくのがこれからの課題です。



一次審査風景



最終審査風景

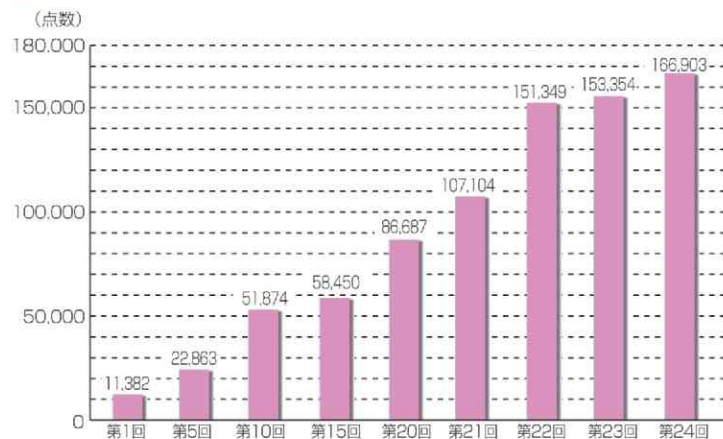


表彰式



記念撮影

■応募数推移



祝賀会にて受賞者交流

■入賞作品

<http://www.tombow.gr.jp>

トンボ絵画コンクール

検索



環境大臣賞 小学2年の部



文部科学大臣賞 小学1年の部



文部科学大臣賞 小学5年の部



環境大臣賞 小学5年の部

■主催:朝日新聞社 朝日学生新聞社
 ■後援:文部科学省 環境省 全国都道府県教育委員会連合 全国市町村教育委員会連合会 全国連合小学校長会 全日本中学校長会 全国高等学校長協会 全国中学校文化連盟 全国高等学校文化連盟 全国高等学校美術工芸教育研究会 日本PTA全国協議会 世界自然保護基金ジャパン(WWF Japan) 日本トンボ学会 トンボと自然を考える会
 ■協力:サクラクレパス

※ 1 ビオトープ 生物群集が存在できる環境条件を備える地域。生物群の生息場所という意味のドイツ語。
 ※ 2 アファン ケルト語で「風が通る所」という意味。C.W.ニコル氏の故郷ウェールズにある谷の名前から名付けた。
 ※ 3 アサザ 池や沼に生える多年生の水草。

環境活動とコミュニケーション

環境への取り組みは人づくりから。できるだけ多くの人に環境の現状を伝え、思いを共有し一緒に改善に向けて行動して欲しい。そんな思いで今できることに取り組んでいます。

■エコプロダクツ展 出展

日本最大の環境イベント「エコプロダクツ展」に出展しています。小、中、高校生を中心に1,200名超の来場者がありました。クイズで環境への取り組みと昆虫トンボについて楽しく学んでいただきました。PETボトルリサイクルのエコ制服や着用後のリサイクル工程を展示したり、制服製造～廃棄までに発生するCO₂重量を実際に体験してもらいました。

一番関心が高かったのは、制服の残り布で作る「マイバッグ制作キット」です。1,000名の方に配布しました。応募数166,000点超の「WE LOVE トンボ」絵画コンクール(小学～高校生対象)の優秀作品も多くの方の関心を惹きつけました。



エコプロダクツ展 会場 東京ビッグサイト 主催 社団法人産業環境管理協会、日本経済新聞社

■制服残布を提供し、CO₂削減

1999年から始めた、マイバッグ制作用の残布(製造時に発生する残り布)の提供は、全国で109校の実績となりました。その中のひとつ岡山県立矢掛高校との取り組みは、レジ袋のゴミ削減にも貢献し、地元の川に棲む絶滅危惧種スイゲンゼミタナゴの生息域を守る活動として生物多様性にも配慮した活動と評価され、2009年度岡山県CO₂削減コンテストで優秀賞を受賞しました。

2010年4月にNHKでも紹介されました。





ルリボシヤンマ

■各事業所の取り組み

身近でできるさまざまな活動を各事業所で実施しています。

東京支店 ノーカーデー

毎月2日間「環境保全の日」として、ノーカーデーを実施しています。これにより二酸化炭素(CO₂)の排出量削減に貢献しています。



大阪支店 地域清掃活動

毎週一回、朝礼前に地域へのお礼の意味を含め、支店の周りの清掃活動を行っています。



広島営業所 グリーンカーテン

南窓側にゴーヤ、東窓側にアサガオを植え、毎日愛情を込めて育てました。

電力使用量は前年7,8月対比約20%減。ゴーヤは約100本収穫。社員はもちろん、ご近所の皆様やお得意様にも配り喜んで頂きました。グリーンカーテンは付近の気温を外気より約5℃下げる効果もあるので、いい事づくめです。



ゴーヤ



アサガオ

玉野本社工場 環境委員会

玉野環境委員会は工場物流の社員で構成され、社員の環境意識が高まる活動をしています。

残布を使ったマイバッグ作成、マイ箸運動、工場周辺清掃、花壇の整備、エコキャップ収集等を行っています。



花壇の整備



工場周辺の清掃

ビクトリースポーツ教室

■スポーツを通して心の教育を

VICTORYスポーツ教育は、「子供たちにスポーツを通して心の教育を」をテーマに全国の小学校、中学校、高等学校に「憧れのアスリート」が直接赴き、講師となって講演と実技指導を無料で行う画期的なプログラムです。



（主催）朝日新聞社・朝日学生新聞社・朝日スポーツ新聞社
（後援）全国市町村教育委員会連合会・（財）日本中学校体育連盟・（財）全国高等学校体育連盟

VICTORYスポーツ教室講師陣

（順不同・敬称略）

- ・山下泰裕（柔道）・山口良治（ラグビー）
- ・西川大輔（体操）
- ・松木安太郎（サッカー）・城彰二（サッカー）
- ・セルジオ越後（サッカー）
- ・宮沢ミシェル（サッカー）
- ・永島昭浩（サッカー）
- ・原田裕花（バスケットボール）
- ・衣笠祥雄（野球）・村田兆治（野球）
- ・福本豊（野球）・与田剛（野球）
- ・伊藤浩司（陸上）・有森裕子（陸上）
- ・大林素子（バレーボール）
- ・中田久美（バレーボール）
- ・益子直美（バレーボール）
- ・宇津木妙子（ソフトボール）・神尾米（テニス）
- ・陣内貴美子（バドミントン）

<http://www.tombow.gr.jp>

ビクトリースポーツ教室

検索

2001年のスタートから9年目を迎え、51校で開催、講演参加者は30,000人超となりました。

生徒の声

- ・一生にあるかないかの貴重な体験でした。
- ・前向きに生きていくことが大切だとわかりました。
- ・プロになるには努力をいっぱいしなくてはいけないことが印象に残りました。
- ・肉体的にも精神的にもすごくためになることを教えてもらいました。

先生の声

- ・本物と出会うことで子供たちにとってなによりの教科書になったと思います。
- ・子供たちのところに財産が残ったと思います。
- ・子供たちが生き生きと練習に取り組んでいました。明日からの練習に磨きをかけるきっかけになり、良かったと思います。

介護にまつわる「キラク川柳」コンテスト

「キラク川柳」コンテストは、介護にまつわる、悲喜交々な川柳をご応募いただくもので、平成22年で第3回を迎えました。介護職員のみならずご利用者のコミュニケーションツール、介護にたずさわる方々の楽しみになれば、という思いで始めました。応募作品は毎回3,000句を超え、「利用者の皆さまと頭をひねり、楽しく賑やかな時を過ごした」「川柳を通じて介護の大切さ、生きる喜びを発信したい」「介護の喜びに溢れた川柳に心打たれた」など、みなさまから非常に大きな反響をいただいています。

第2回キラク川柳

□キラク大賞

「また来ると立って顔見てまた座る」



ステキな笑顔のオバケ様。施設での何気ない出来事を詠んだ句。難しいことは何も考えず、思ったことをただ五七五にされたそうです。

特別養護老人ホーム
オペラハウス鴨方（岡山県浅口市）

ペンネーム オバケ様



ヒメクロサナエ

制服着こなしセミナー

<http://www.tombow.gr.jp>

制服着こなしセミナー

検索



生徒、先生や保護者に、制服の着こなしを正しく理解していただくためトンボグループは業界に先駆け「制服着こなしセミナー」を行っています。

制服は、学ぶ自覚を促すとともに、教室を学ぶ雰囲気に整える役割が期待され、また、良い意味でライバル他校との差別化を図り、自校と自らのプライドを助長する教材だといえます。

しかし、制服を私服感覚で着崩したり、そこまできかずとも、だらしなく着て当たり前のような風潮が蔓延するようだと、その効果も半減し生徒の内面さえ疑われるのではないのでしょうか。

そこで、制服を提供する立場から、生徒のみなさんの制服姿を良くしたいとの願いから、「制服着こなしセミナー」を行っています。



トンボが伝えたいこと(セミナー内容)

生徒対象の場合、共感と呼ぶ映像や話題などを交え、わかりやすく面白いものにしてはいますが具体的には次のようなことを伝えるように組み立てています。

学校に行く目的は。。。？

①学校は勉強をするところ
～勉強する心構え～

②勉強と共に社会に出る準備の場
～ルールを覚える～

③制服で服装のルールとマナーを身につける。

①制服は教材

制服は教科書と同じように教材の一部であり、マスターするまで反復指導されるのは当然であること。

制服は自分だけを表示するものではない！

自分・友達・先輩・学校を表示する大事なアイテム。
そして、自分の今と未来を映す鏡。

〇〇高校の代表

③見かけが所属するグループのイメージを作る

自分の制服姿が、自分だけでなく友達や先輩後輩、ひいては学校そのもののイメージに良くも悪くも影響すること。

どの容器で飲みたいですか？

②見かけで内面が分かる

制服姿(着こなしや態度、表情など)が内面の現れであり、外見の印象によって、その人の内面もある程度評価されてしまうこと。

On DutyTime の着こなしは Tight up

Tight up style

Loose down style

④制服は「ON DUTY WEAR」

- ・カジュアルウエア(私服)＝ノンルールがルール。
- ・オンデューティウエア(制服)＝時と場面と場所に応じた着こなし。

だから、制服と私服の着こなしを混同して着こなすと着崩しになること。

※制服着こなしセミナーは年々要望が多くなり、2001年開始以来、延べ1,050校を越えた学校で開催しています。

□優秀賞

「その笑顔 亡母と重なり 頼りせる」

ペンネーム ゆうちゃん様

「真っすぐに 生きて十指が 節くれる」

光森 藤子様

「つらくても 泣かない母の うれし泣き」

ペンネーム りゅう様

□団体賞/2団体

代表で特別賞を受賞された三好様へ賞状の授与。瑞々しい感性にあふれた作品を多数ご応募いただきました。

神戸市立葦合高等学校(兵庫県神戸市)
2年生 国語表現選択のみなさま



代表でご利用者の高橋様へ賞状の授与。「賞状をもらうのは60年ぶり!これを糧にもっと頑張りたい。」と喜びの言葉を口にされました。

介護老人保健施設
創春館様(群馬県前橋市)



<http://www.kiraku.gr.jp>

キラク川柳

検索

日本唯一のユニフォーム研究開発センター

ユニフォーム研究開発センターには「技術・研究部門」と創業120年記念事業で開設された「ユニフォームミュージアム」があります。奈良・飛鳥時代に始まる日本の学生服の歴史展示や、英国を中心とした海外のユニフォーム、制服のルーツ展示などで幅広くユニフォームの知識を学ぶことができます。また、最新の制服をお見せするショールームは、全国の採用実績、デザイン傾向、新モデル展示の他、制服の機能性や着こなしに関するさまざまなデータなど制服メーカーとして選定に必要なあらゆる情報を取り揃えています。



はっしょうかん 八正館(トンボ歴史資料館)

八正館ではトンボ134年の歴史を、創業時からの製品や工具・設備、ポスターなどの展示物で紹介しています。創業以来一貫した「愛と汗」「ご縁を大切に」の企業理念のもと、企業活動を支えてきた“人づくり”や“社会貢献”“環境活動”などの活動を展示しています。周辺には創業時、足袋の艶出しに使った砧石、初代社長三宅保正の銅像、戦後の混乱期を支えた旧紡績の給水塔も配置されています。



きめた石



給水塔



ハネヒロエトトンボ

工場見学・インターンシップ

地元小学生の社会科授業や産業ツアーの会場など、さまざまな学校や団体に工場見学の機会を提供しています。新工場オープン以来214団体3,136名の見学者の方にご覧いただいております。

また、中高大学生のインターンシップも受け入れ、将来の職業選択の参考になるよう応援をしています。参加者からは「仕事の大変さ、社会のルールや挨拶の大切さが分かった」などの感想をいただいています。



見学後、地元の小学生が新聞を作ってくれました。



財団法人 八正会

財団法人八正会は岡山県内の高校生に対して奨学金を給付する育英事業団体です。

■八正会の概要

八正会は、初代社長三宅保正が、「社会に少しでも恩返しをしたい」との思いから、1956年に私財を投じて始めた育英事業で、1960年に財団法人設立認可を受けました。岡山県内に在住し、県下の高等学校に進学する生徒に奨学援助を行い、人材育成を支援しています。これまでに、600名以上の生徒を送り出しています。

■八正会の活動

八正会では、年4回の研修会を行い、人間性の向上と奨学生同士の親睦を深めています。

4月 入会式



現会員や役員、OBが集まって新会員を迎えます。

8月 夏期研修会(ディベート)



2泊3日の宿泊研修。ディベートやレクリエーションなどを通じて交流が深まります。

11月 秋期研修会(工場見学)



講演会や工場見学、梨狩りなどの野外活動を行います。

1月 歓送会



卒業生を送り出します。

◎機関誌「やまびこ」の発行



会員の交流の場として、また会員一人ひとりが自己を省みる場として、会員・役員・OBの執筆による機関誌「やまびこ」を年2回発行しています。

<http://www.hasshoukai.or.jp>

財団法人 八正会

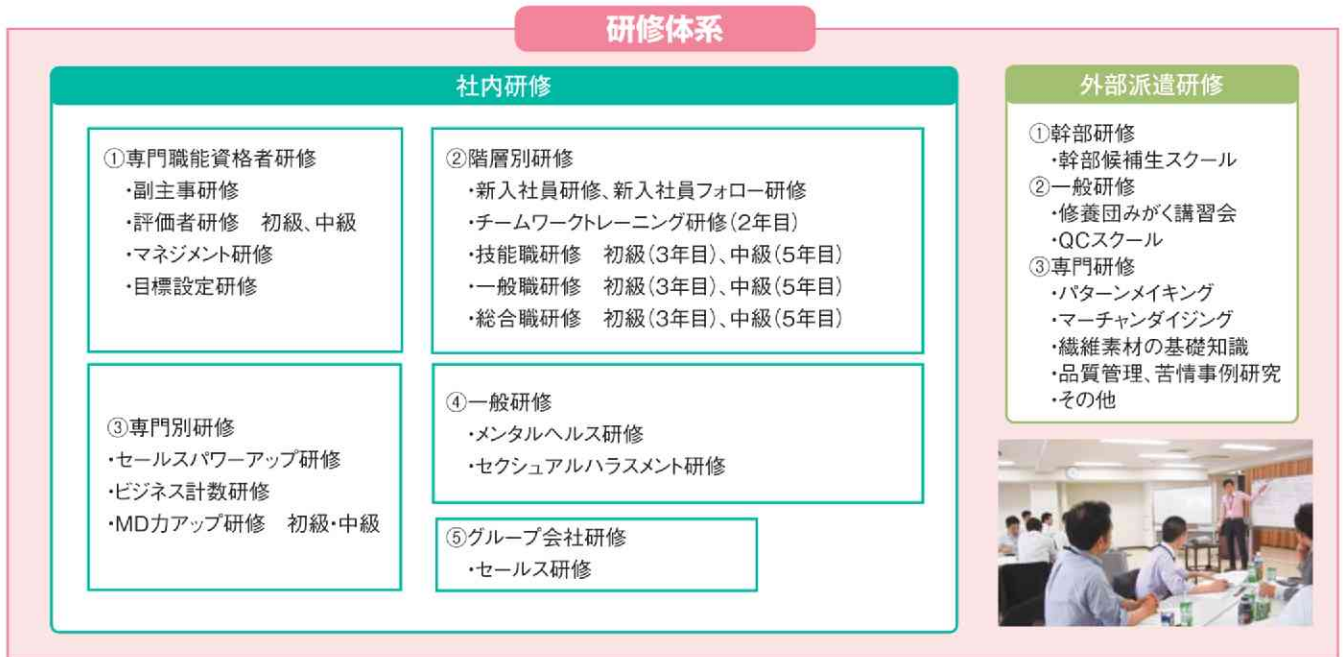
検索

■ トンボスクール

人材育成機関であるトンボスクールでは、社員は人財との基本方針に則り、社員を一人の人間として一流に育て上げるため、3つの柱を中心に構成されています。

1. 能力開発研修

長期的な視点で社内、外部派遣研修を計画的に組み込み、OJTを絡めて個々の能力アップをサポートします。



2. 通信教育支援

自己啓発と職能資格制度との連動(昇格要件)の両面から通信教育を推奨し、28年間継続しています。

また、当期から会社や部門推薦講座を設け、より関心度を高めてもらう工夫もしています。

受講期間内に修了した場合には受講料の援助金が給付され、毎年多くの社員が受講しています。

今年は、218名が受講し、修了者193名で、修了率88.5%です。

3. 資格取得支援

テクニカルスキルアップを目的に、資格取得を応援しています。

会社が奨励する資格取得者には、お祝い金が給付されます。

取得資格名	2009年	累計
繊維製品品質管理士(TES)	3	27
技能士(縫製)	0	20
技能士(パターン)	0	13
技能士(機械整備)	0	4
ファッションコーディネート色彩能力検定	1	2
販売士	0	12
日商簿記検定	2	4
秘書技能検定	1	2
ピオトップ計画・施行管理士	0	1
衛生管理者	0	14
危険物取扱者	0	3
電気工事士	0	2

■ 目標によるマネジメント(目標管理制度)

期首に個人の1年間の目標を立て、自律的なマネジメントサイクルにより目標達成を目指します。目標の設定は会社の方針と個人目標を連動させ、また個人の3年後のビジョンも考えてもらいます。

目標の設定、半期面接、期末面接の節目では常に上司と部下で話し合いが持たれます。



ゲンバイトンボ

■健全な労使関係

労働組合「トンポユニオン」と健全な労使関係にあり、社員の労働条件などについて交渉・協議を行っています。

■レクリエーション

会社と組合協賛でスキー旅行、日帰り旅行、ボウリング大会等開催しています。



■社員の健康増進

様々な社内クラブ活動を支援しています。就業後や休日には練習、試合、合宿など、普段の運動不足や仕事の疲れなどを解消し、社員のコミュニケーションに役立っています。

また、玉野本社工場にはフィットネスルームがあり、プロのインストラクター指導のもとに健康教室、エアロビクスを行っています。



■朝の職場風景

始業前は、男女・役職にかかわらず全員で一斉に掃除をします。また、工場はもちろん、事務所でも全員でラジオ体操をしてから仕事を始めます。



■こころの健康相談室

社外の専門の先生が社員とその家族の方々のこころの健康相談にのってくれます。2009年は全事業所で全社員を対象にハラスメントのセミナーと「ストレスに強くなる」と題して先生に講演をしていただきました。2009年の延べ相談件数は電話が15件、メールが77件ありました。



■家族見学会

玉野本社工場・物流サービスの施設完成を記念して、社員の家族を招待し見学会を行いました。49家族119名の参加があり、日頃見ることが出来ない職場を見学しました。家族サービスもでき、社員を支えて下さる家族との絆が深まった1日でした。



■労働安全衛生対策

安全衛生委員会では、定期的に職場を巡回し安全面・衛生面のチェックを行い必要に応じて対策をとっています。昨年は、岡山本社の階段の手すりの取り付け・新型インフルエンザ対策を行いました。また、残業が多くなった社員には産業医の先生と面談を実施し、心身の健康チェックを行っています。

■セクハラ相談窓口担当者セミナー

実際のセクハラ相談に備えるため、外部の専門家を迎え各事業所の相談窓口担当者を対象としたセミナーを開催しました。



■託児施設

従業員が安心して働ける環境を整えるために、1歳から5歳までの乳幼児を預かる託児所を玉野本社工場事業所内に設けています。

	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年
託児所利用者(人)	12	10	17	8	16



節分の豆まき風景

健全な企業風土づくり

■ マイスター制度

ユニフォームメーカーとしての基盤となる、物づくりに関わる技術・技能・ノウハウを次世代にスムーズに継承していくことを目的に、高度な匠の技術を有する人に「マイスター」、「インストラクター」の称号を与え手当を支給しています。

現在の認定者は、マイスター1名、インストラクター6名です。

■ 技能継承スクール

ベテラン専門社員による若手への技術養成塾を開講して技能の継承を図っています。

特に、パターン作製・生産設備保全業務等においては、一人前になるまでに、かなりの時間を要します。



パターン技能の指導



設備・保全技能の指導

■ 社員の努力を評価、表彰する制度があります

◇ 提案制度

業務改善活動として、個人で行う「個人提案」と、チームで取り組む「チーム提案」があります。提案用紙や報告書、発表会などとおして審査され、表彰、賞金が支給されます。2008年の総提案件数は2,574件で1人平均4.0件でした。

■ 育児休業・介護休業制度

1年間(最長1年6ヶ月)の育児休業制度ならびに6ヶ月間の介護休業制度。

	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年
育児休業取得者(人)	0	4	1	4	5

■ 再雇用制度

60歳定年後も引き続き勤務する意思のある人を対象とした再雇用制度を設けています。

		2005年	2006年	2007年	2008年	2009年
定年到達者(人)	男	4	4	4	6	11
	女	6	14	21	18	16
再雇用者(人)	男	1	2	2	5	6
	女	1	7	11	11	11

■ 障がい者雇用

障害を持った方がいきいきと働ける職場づくりをめざします。

	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年
障がい者雇用率(%)	1.76	1.69	1.63	1.62	1.57



提案表彰受賞者

社員の声

◇ 資格取得者の声

玉野本社工場 劉 文霞
入社して1年目に婦人子供既製服縫製作業2級の試験を受けました。経験が浅い私ですので、最初は無理だと思いましたが、工場長・班長などに支えていただいたので、途中で諦めることなく実技や学科の練習を続け、資格を取得することができました。この資格試験を通じて身に付いた知識は仕事に大変役に立ちました。また、試験のきっかけで、自分のことを見直すことができました。何事でも前向きにやってみるのが大切です。これからもより高品質の製品を作るために、いろいろチャレンジを試みたいと思っています。



◇ メンタルヘルスセミナー参加者の声

岡山工場 大賀和弘
『ストレスに強くなる』というテーマでメンタルヘルスセミナーが開催され、ストレス度自己診断テスト、ストレスと上手につきあう方法などの講義を受けました。その中で特に印象に残った事は、ストレス自体は我々人間にとって避けられないものであり、逆に適度なストレスは仕事や私生活においてむしろ必要なものであるという事でした。工場の中でも流れ作業上の環境的なもの、同僚や上司との人間関係などストレスを感じている方は数多く居られると思います。それらのストレスと上手につきあい、過度なストレスを適度な状態に減じる事が出来るよう、対策を講じてまいりたいと改めて思いました。



沿革

1876年(明治9年)	●三宅熊五郎により創業
1908年(明治41年)	●初代社長三宅保正が事業を継承
1910年(明治43年)	●「キラクたび」を主要商標として登録
1924年(大正13年)	●法人設立、帝国足袋株式会社と称す
1930年(昭和5年)	●学生服の生産・発売を開始。現在のトンボ学生服の第一歩である
1944年(昭和19年)	●帝国興業株式会社に社名変更
1945年(昭和20年)	●学生服・足袋再生産開始
1947年(昭和22年)	●紡績部門を設ける
1955年(昭和30年)	●学生服・作業服・トレーニングパンツJIS規格表示許可工場となる ●合繊製品生産開始
1965年(昭和40年)	●丸洗(ハイウェイ)学生服誕生
1971年(昭和46年)	●スポーツウェア専門桐原工場(現 美咲工場)建設
1974年(昭和49年)	●テイク株式会社社に社名変更 ●本社事務所岡山に移転 ●岡山工場 新築移転
1976年(昭和51年)	●創業100周年 ●S.I.(スクールアイデンティティ)提唱 ●オンラインシステム導入
1979年(昭和54年)	●本社事務所 岡山駅前に移転
1982年(昭和57年)	●玉野流通センター完成
1983年(昭和58年)	●業界初のウール50%ウォッシュブル学生服誕生
1984年(昭和59年)	●本社工場コンピュータ・グレーディング・マーキングシステム導入
1986年(昭和61年)	●創業110周年記念事業として「WELOVEトンボ」絵画コンクールを始める
1989年(平成元年)	●デザイナー山本寛斎氏と提携、「KANSAI SCHOOL FORM」販売開始
1990年(平成2年)	●デザイナー桂由美氏と提携し、ビジネスユニフォーム販売開始
1993年(平成5年)	●本社工場内にカッティングセンター設立と自動裁断システムの導入
1994年(平成6年)	●デザイナー中野裕通氏と提携し「ヒロミチナカノスクール」販売開始
1996年(平成8年)	●創業120周年事業としてユニフォーム研究開発センター設立
1997年(平成9年)	●介護、リハビリウェア「KIRAKU」販売開始
1999年(平成11年)	●ISO9002品質マネジメントシステム(QMS)認証取得
2001年(平成13年)	●ISO14001環境マネジメントシステム(EMS)認証取得 ●「コムサデモード・スクールレーベル」販売開始
2002年(平成14年)	●ISO9001品質マネジメントシステム(QMS)認証取得 ●本社事務所 岡山市厚生町に移転
2003年(平成15年)	●「オリーブ デ オリーブ・スクール」販売開始
2006年(平成18年)	●ISO14001環境マネジメントシステム(EMS)認証取得(全13事業所) ●創業130周年 株式会社トンボに社名変更
2008年(平成20年)	●新本社工場・物流センター完成
2009年(平成21年)	●「ヨネックス」と提携、学校体操服の販売開始 ●メディカルウェア(白衣)の販売開始

代表的商標の歩み

◎足袋製造時代の主力商標は、キラク

瀬戸内特産の綿花を使った足袋がヒットした時代の主力商標はキラクでした。創業者の母親の名を『亀』と言い、その亀さんを楽にさせたい、だから亀楽の意味でキラクとなったと言われています。その後、キラク商標はしばらく休眠していましたが、1997年(平成9年)、介護衣料を始めるに当たり、キラクを、人生を例える『喜怒哀楽』から怒りと哀しみを取り去った「喜楽」と読み替え、新生キラクが立ち上がり今日に至っています。



◎トンボ商標

アサヒトンボ商標は、当初、キラクに続く足袋商標の代名詞でした。1930年(昭和5年)、学生服製造を始めるに当たり、市場に早く浸透するため、その知名度を生かしアサヒトンボ商標が用いられましたが、学生服事業が拡大するにしたがって、呼びやすさや親しみやすさからトンボが一本立ちし、『トンボ学生服』となり、今日に至っています。トンボ商標は、創業80年史(1956年刊)によれば、「日本は世界一蜻蛉(とんぼ)の多い国であります。日本の国を秋津洲(アキツシマ)ともいい、この「秋津」とはトンボのことです。即ちトンボは日本を表徴し、しかも子供に親しまれる益虫であります。更に「アサヒ」は将に太陽の天に昇るところ即ち日出づる国として、日本の表徴であります。このアサヒにトンボを組み合わせた図柄は、我国の発展を祈る真心より弊社の商標といたしたものであります。」の記述があります。

戦前に使用の アサヒトンボの商標		昭和30年より	トンボ学生服 Tombow
昭和23年より使用の アサヒトンボの商標		昭和49年より	Tombow®
昭和30年より使用の トンボの商標		平成元年より	TOMBOW
		平成18年より	トンボ学生服 TOMBOW

トンボひとくちメモ

日本はトンボの国

その昔、日本のことを「秋津洲」と呼んでいました。「あきつ」とはトンボの古い呼び名。つまり、日本はトンボの国だったのです。日本書紀によると、大和の地で即位された神武天皇が小高い丘の上から国見をされた折、「あきつのとなめ(交尾)せるが如くあるか」と仰せられたことがきっかけとされています。

株式会社トンボ 環境・CSR推進本部

〒700-0985 岡山市北区厚生町2丁目2-9 E-mail kankyo@tombow.gr.jp TEL.(086)232-0368 FAX.(086)225-6680
※当レポートに掲載されている内容・写真の無断転載はお断りします。

CSRレポートとは

企業が、環境や社会問題などに対して倫理的な責任を果たすべきであるとするCSR(企業の社会的責任)の考え方に基いて行い、社会的な取り組みをまとめた報告書。持続可能性報告書とも呼ばれ、企業の環境、労働、安全衛生、社会貢献などに関する情報や、事業活動に伴う環境負荷などを幅広く公開する。近年、さまざまなステークホルダーに対する説明責任を果たすコミュニケーション手段の一つとして環境報告書からCSR報告書へ移行する企業が年々増加傾向にある。



第24回「We Loveトンボ」絵画コンクール
文部科学大臣賞 小学1年の部 菅野 鈴美麗



人と自然を大切にしたい価値ある製品づくりを

株式会社 **トンボ**

トンボCSRレポート

検索



印刷用紙は、適切に管理された森林で生産されたことを示すFSC森林認証紙を使用。インキは環境負荷の少ない植物性大豆インキを使用しています。